

●低血糖

赤ちゃんの脳は、その機能を維持するためには絶え間ないエネルギーの供給が必要です。そのエネルギーのもとになるものが糖です。脳内には糖の保存はなく常に血液から供給されることが必要です。そのため血中の糖濃度を維持する必要があります。そのため低血糖は脳内のエネルギー供給が途絶えることになりエネルギー不足による障害が発症する可能性があり注意が必要です。おなかの中では胎児はお母さんから糖분을絶え間なく供給されていますが、出生後は、おっぱいを飲むようになるまでは糖の供給がなくなるので血糖が低くなります。通常であれば生後1～2時間が最低となり、その後上昇してきます。

血糖値がいくつ以下になると障害がでるという明確な値はありませんが、40～45 mg/dL以上に維持するようにしています。低血糖の原因は、低出生体重児や早産児は蓄積不足によりますが、そのほか、糖尿病母体児ではインシュリンという血糖値を下げるホルモンの過剰による、また成長ホルモンなど血糖を調節するホルモンの分泌異常によることもあります。

症状としては、ほとんどの児は無症状で検査をしてはじめて分かるものですが、易刺激性、痙攣、無呼吸、傾眠などの症状で発見されることもあります。低血糖の場合、先ずは糖の供給量を増やすことにあります。経口摂取量を増やしたり、点滴の糖濃度を増やすことで対応できることがほとんどですが、赤ちゃんによっては特殊な薬を使用しなくてはならないこともあります。